

植物ヲ學ブモノハ一度ハ京大ノ 芦生演習林ヲ見ルベシ

中井猛之進

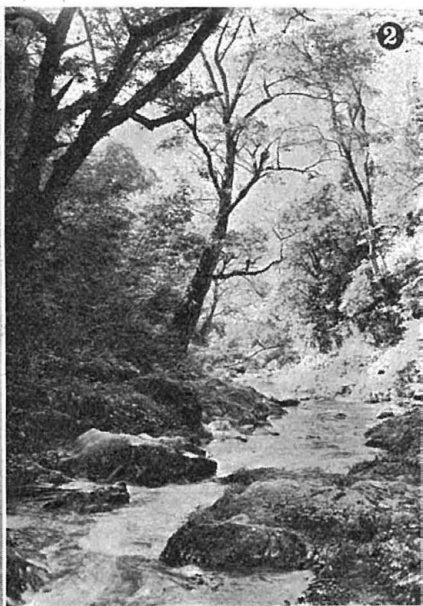
T. NAKAI: Speciality of Asio Experiment Forest of
Kyoto Imperial University.

京都帝國大學農學部勤務ノ助教岡本省吾氏ハ京都府下（丹波國）北桑田郡^{キタクハタ}知井村^{チキ}字^{アシフ}蘆生ニアル京大演習林ノ植物ヲ以前カラ精査シテ新種あしをてんなんしやうノ様ナ珍種ヲ發見シタノデアル。其後昭和 11 年親山泰一君ガ東京帝大理學部植物學教室ニ出入シテ居ル頃單獨デ芦生演習林ニ植物採集ヲ試ミ歸京後芦生ニハはひいぬがや、ちやぼがやノ様ナモノガ非常ニ多ク生エテ居ルカラ一度行ツテ見テハドウカト勸メラレタ。其以來一度ハ行ツテ見タイト思ヒナガラ遂ニ今日迄行キ得ナカツタ。東京帝國大學理學部植物學教室ニハ日本全國デハ一番多クノ植物標本ガ蒐メラレテ居ルガ近畿、山陰、北陸ノ植物ハ憐ム可キ程少ク其ヲ基ニシテ其等地方ノ植物ノ分布ヲ論ズルナドハ思モ寄ラヌコトデアル。此理由カラモ芦生ノ演習林ヲ見テ置キタイト思ヒ文部省ノ學術研究獎勵費ヲ利用シテ五泊ノ旅ヲシタ。

東京カラ芦生ニ行カウトスルニハ打合せノ都合上京都ニハ往復共一泊シナケレバナラス。往キハ午前 8 時 8 分京都驛發正明市行ノ山陰線ニ乗り込ミ殿田驛迄行キ下車スル。此汽車ニ乗ルニハ一番先即チ機關車ニ近イ箱ニ乗ル必要ガアル。何故カトイフト其箱ノ停マル直グ前ガ改札口デアツテ其所ヲ出ルト四ツ谷行ノ乗合自動車ガ待ツテキルノニ直ニ乗レルカラデアル。此乗合ハ逸スルト次ノ乗合ノ來ル迄數時間待タナケレバナラス。又緩々乗ルト先ニ座席ヲ占領サレ天井ノ低イ車内デ立チ續ケナケレバナラス。四ツ谷デハ車ヲ乗換ヘナケレバナラスガ此時モ早ク乗換ヘ得ルタメニハ豫メ四ツ谷行ノ自動車ノ最モ入口ニ近イ座席ヲ取り四ツ谷ニ着クト直ニ下車シテ次ノ乗合ニ乗り得ル様ニセネバナラス。四ツ谷ヲ出ルト^{ヘラトウゲ}原峠トイフカナリ大キナ峠ヲ越エテ保津川ノ流域カラ由良川ノ流域ヘ下ルノデアル。山又山ノ山間ノ部落ヲ幾ツカ通ツテ中トイフ終點ニ達スル。此所ニハ飲食店ハ一軒モナク宿屋ガ一軒アルケレドモ山中曆日ナク飯ヲ注文シタトコロ浪漫々的デトテモ都會人ニハ待チ切レヌカラ晝食ハ必ズ携行スル必要ガアル、又携帯行糧ヲ食フタメ茶ヲ要求シテモ快クハ出シテハ呉レヌ。此邊モ豫メ覺悟スル要ガアル。中カラ演習林迄ハ徒步三里トイフ事ニナツ

テキルガ植物ヲ採集シナガラ行クト四里半以上ニ思ヘル。演習林カラ出ル材木ヤ木炭ヲ運ブ トラック ノ通ル立派ナ道路ハ出來テ居ルガ山ノ中ノ事デアルカラ路傍デカナリ多種類ノ植物ヲ採集スルコトガ出來ル。關東者ノ目ニ珍ラシイノハこばのみつばつつじ、たにうつぎ、かくみのすのき、大キナいたどり、あかそ、ちやばいぬがや、こばのいぬつげ、中國ざさ、なんきんななかまど、いそのきナドガ路傍ニザラニアルコトデアリ、殊ニいはなし、のぎらんナドハ最モ普通ニアル。其他ニつくばね、こばのこまゆみモアル、こばのこまゆみハ大正8年朝鮮總督府發行ノ拙著鬱陵島植物調査書ニ寫眞ヲ添ヘテ發表シテ置イタ灌木デアリ、地中ヲ走ル匍枝カラ地上莖ヲ頂生シテ簇生シ葉ハこまゆみノ半分カラ四半分位デアツテ濃綠色デ枝ハ非常ニ密ニ分岐スルカラ美事ナモノデアル。予ハ日本國中鬱陵島以外ニハ産スルコトヲ知ラナカツタノデアルカラ此灌木ガ此地方ニ普遍的ニアルノニハ一寸驚カサレタ。中國ざさニ混ジテしまざさ、おくやまざさナドノ北地性ノささガアルノモ特異性デアル。山ハ大概ハすぎノ造林地ニナツテキルガすぎハ實ニ見事ニ生育シテ居ル。近來ハ吉野すぎモ植エルガ雪ニ倒レルト人手ヲカリテ起サナケレバナラヌカラ雪ノ多イ此地方ニハ不向キデアルサウデアル。此地方ニアルすぎハ古來此地方ニ天生スルすぎデアツテ下枝ハ横ニ地面ニ擴ガリ地ニ着イタ所カラ根ヲ下シテ獨立ノ木ニナル、其故始メハ莖ハ傾上スルガ親木カラ離レテ獨立スル様ニナレバ立チ假令雪ニ曲ゲラレテモ雪ガ消エレバ自力デ立チ直ル性質ガアル。其ノミカ挿木ニスルト百パーセント活着スルシ、材質モヨイカラ敢テ他地方ノすぎデ造林スル必要ガナイドコロカ反テ失敗ノ因ヲナス。「植林ハ其地方ニ天生スル樹木中最モ有用ナルモノヲ選ビテナスベシ」トハ大正2年以來固執シテ來タ予ノ持論デアルガ。知井村ノすぎモ亦持論ヲ立證スル好材料デアル。此外ニあかまつ、ひのき、つが等ノ針葉樹ガアルガ大キナル潤葉樹ニハとちのき、うらじろがし、こなら、みづめ、みづなら、つくばねがし、あかしで、いぬしで、いたやかへで、やまざくら等ガ多ク、せんのか、からすざんせう、いものき、こしあぶら、けやき、おにぐるみ、ほほのか、かつら等ハ少イ方デアル。演習林ニ行ク迄ノ路傍デさいふりばく、やまとあをだも、ほんしやくなげ、あくしば、かなくぎのかき、きんきまめざくら、よこぐらぶだう、たちみやましぐれ、へらのき、はねみのいぬゑんじゆ等關東者ニ珍ラシイモノガ採レルシ、水ヲ飲ム程度ノ小サイ溪流ニ沿ツテハ必ズおほちやるめるさうガアル、又いはなしト一所ニおほいはかがみノ群生スル所モアル。

予ハ演習林内ヲ唯二日ヨリ歩イテ居ナイ、近來頽齡ニナツタノカ足ガ弱クナ



第 1 圖 冬ノ由良川上流

第 3 圖 由良川上流ノ風景

第 2 圖 由良川上流ノ風景

第 4 圖 うらじろかしノ群落

(岡本省吾氏寫ス)



第5圖 すぎノ天然林相（岡本省吾氏寫ス）



第6圖 由良川上流ノ岩面=ほんしゃくなげ群生の狀（岡本省吾氏寫ス）

リ豫定ノ半分モ路ハ進捗シナイ、牛歩遅々タリト謂フベキデアルガ其代リ生エテ居ルモノヲ見遁ス率ハ少クナツタ。負惜シミデ言フノデハナイガ一里ヲ 3-4 時間カケナイト本當ノ採集ハ出來ナイ。一昨年 4 月ニ鹿兒島縣内ノ牧國有林^{ウチノマキ}デハ僅々 20 町ノ間ヲ 6 時間ガカリデ採集シテ大收穫ヲ得タガ此ナドハ先ヅレコードノ方デアラウ。

片生演習林ハ其案内記ニ

- (1) 本邦森林樹木中ノ王トモ稱スベキすぎノ郷土ノ中心ト考ヘラル、(中略)、本邦ノ林木中最主要ナルモノハすぎデアリ其ノ郷土ハ蓋シ裏日本各地ニ之ヲ見ルベキモ面積、位置、地形等ノ關係ニ於テ本林ホド理想的ナルモノ絶無ト稱スルモ過言ニ非ザルヲ思ヘバ本林ノ如何ニ重要ナルカラ知ルニ足ラウ。
- (2) 寒地性植物ト暖地性植物トガ相交ハリ自生セル點ニ於テモ他ニ多ク比類ヲ見ヌ(下略)、
- (3) スル貴重ナル林地ガ誠ニ偶然ナル機會ニヨリテ今日迄アマリ多クノ人爲的變遷ヲ見ルコトナクシテ保タレタ(下略)、

トアル三項目デ其重要性ハ言ヒ盡シテアルガ以下私ノ見タダケノ狭イ範圍内デモ如何ニ此ノ三項目ガ理解サレルカラ説明シテ見ヤウ。

(1) 既記ノ通り此邊ノすぎハ匍枝狀ノ下枝ヲ延シ其レガ地ニツクト根ヲ下シテハ一本ニナルカラ崖ノ様ナ土ノ少イ所デ其主幹トノ連絡ガ枯死腐朽シナイ場合ニハ傾上スルすぎノ幹ガ林ヲナシテ繁リニ茂ツテ崖ノ全面ヲ蔽フテ居ル。此すぎハ吉野ノすぎ又ハ富士、天城ノすぎ又ハ秋田ノすぎト異ナリ末梢特ニ下枝ノ末梢ガ長ク下垂スル性質ガアリ又毬果ノ苞片、實片ノ突起ガ短イカラ毬果全體ガ丸味ヲモツ特徴ガアル。予ハ此品種ハ特ニ植物學上カラモ片生すぎ *Cryptomeria japonica* D. DON var. *radicans* NAKAI¹⁾ トシテ一本立チニナルすぎト區別スルガ正當ト思フ。同様ニ屋久すぎノ様ニ伐株カラ新條ヲ發生スルモノモ變種又ハ品種トシテ分ツベキト考ヘル。一般ノ植物學者ハ恐ロシク森林樹木ノ智識ニ乏シイ。今カラ三十餘年前ニ予ト小泉源一君トガ互ニ相勵マシ合ツテ樹木類ヲ研究シ始メタ時ニハ植物學ノ異端者ト見做サレ殊ニ農林系統ノ人カラハ幾度カ「植物學者ガ木ヲ研究スルノデスカ」ト云フ奇問ヲ受ケタガ公正ノ立

1) *Cryptomeria japonica* D. DON var. *radicans* NAKAI, var. nova.

Rami inferiores declinato-ascendentes radicanes demum truncos novos sympodiale formantes. Folia tenera. Appendices strobili breves ita strobili rotundiores esse videntur.

Nom. Jap. *Asio-sugi*.

Hab. in Hondo, Prov. Tanba, in montibus Asio oppidi Tii.

場カラ森林樹木ヲ觀察研究スルト殘サレタル事實ハ實ニ多イ。かつら、いぬがや、かや、くろび、いぬゑんじゆ、しらべ等ガ舊日本内ダケデモ 2 種以上ニナツタノヲ始メトシ予ト小泉君トガ記載シタ樹木類ノ新種ハ 200 種以上モアリ今後モ未ダマダ數多ク發見サレルデアラウコトヲ疑ハナイ。殊ニ大木ニナルト其果實ヤ花ヲ採集スルコトハ容易デナイ。其故コバチノ様ナ大木モ下カラ眺メテ「アーしほぢカとねりこダ」ト片附ケテ居タノデアルシ今モ尙ホ「登レヌカラ仕方ガナイ」「採レヌカラ仕方ガナイ」デアキラメラレテ居ルモノガ多イ。苳生すぎヲ見ルニツケテモ、又今回モ採レヌカラ已ムナクアキラメタ穂ノ長サ少クモ 10 cm 以上ハアルト見エルさはしば、高イ所ニアルほほのきノ果實、葉ノ細イみづなら等々相當ニ殘念ノ場面ガ多クアツタ。

話ガ大變横道ニソレタガ本論ニ反ツテ苳生ノすぎハ實ニ見事ナモノデアリ其嚴然タル自生狀態ハ演習林ノ事務所カラ數町内ニサヘ見ラレル。殊ニ灰野ノ部落ト小よもぎ谷トノ間ニ突出スル山脊ニハあかまつ、ひめこまつ、すぎ、ひのき、つがガ混生シ未ダ一回モ人手ニモ山火事ニモ遭ハナイ所ガアル。みづならナドトノ混淆林ヲナシ下木ニほんしやくなげガ群生スルナドメツタニ見ラレヌ資料デアル、山中到ル處杉ノ老樹ガアル、其レガ皆中シ合セタ様ニ根本ガ傾上シ以前ニ枝條ノ着生シタモノカラ發育シタコトヲ物語ツテキル。

(2) 本島中部以北ニ多イ植物例ヘバかつらノ如キ喬木トほんしやくなげ、はひいぬがや、ちやぼがや、たむしば、むらさきつりばな等ノ灌木類トいはうち、おほばいはかがみ、いはなし、つるしきみ等ノ小灌木トガうらじろがし、つくばねがし、つばき、そよご、しらき、こばんのき、ゆづりは、さんせう、こばのいぬつけ、あかみのいぬつけ等ノ中部以南ニ多イ植物ト混生シテ居ルノガ誠ニ不思議ニ見エル、予ガ先年鬱陵島ノ報告書中ニつがノ林ノ下ニつばきが群生シ、其下ニはくさんしやくなげガ群生シ、其下ニヤぶかうじガ群生シテ居ルコトヲ記シ、其理由ハ夏期甚ダシク暑カラズ、冬期甚ダシク寒カラザルニアリト説イテ置イタガ苳生モ亦此レト同様デ 7-8 月中ノ平均溫度ハ 26-27°C デアリ、1-2 月中ノ平均溫度ハ -0.8—-1.9°C デアル、最低ノ記録ハ -4.7°C デアリ最高ノ記録ガ 34.7°C デアル。斯様ナ溫度ニ支配サレ特ニ冬ハ樹林ト深雪 (1-4 米突) トデ保護サレテ居ルカラ其條件ハ恰度鬱陵島ト同様ニナリ相似ノ植物群ヲ成シタノデアル。

(3) 現苳生演習林ノ全區域ガ京大ニ移管サレタコトハ慶ブベキデアル。近時ノ林業ハ一般ノ樹木類ハ勿論、下草迄モ辨ヘテ其等ヲ如何様ニ取扱ヘバ目指ス木ノ生長ヲ助成シ得ルカトイフ點ニ主眼ガ置カレテ居ルカラ原生林ニツイテ



第 7 圖 開花セルうすきやうらく *Menziesia tubiflora* (岡本省吾氏寫ス)



第 8 圖 たむしばノ開花 (岡本省吾氏寫ス)



第 9 圖 おほいはかがみ *Shortia magna* ノ開花 (岡本省吾氏寫ス)



第 10 圖 崖＝うのはなぎぼうしとぜんまいノ混生スル狀 (岡本省吾氏寫ス)

ハ先ヅ第一ニ其組成分子ヲ知ツテ其地方ニ適不適ノ樹種竝ニ適性ノ樹種ト他ノ天生ノ樹木類及ビ草本類トノ關係ヲ究メルカラ今後如何様ニ人工造林化シテモ其一部分ハ必ず天然見本林トシテ保護保存サレルカラデアル。之ガ民有デアルナラ右カラ左ヘト當座ノ利益ノミヲ事トスルカラ林學ノ研究ヤ植物ノ研究ナドハドウデモヨイ。早ク言ヘバ目前ノ利益サヘ得ラレルナラ水害、旱害、水饑饉ナドノ原因トナラウガナルマイガ御構ヒナシニ伐リ倒ス。若シ多少ノ具眼者ガアツテ其無謀ヲ責メレバイヤ國策ニ副フノ炭ノ不足ヲ補フノト理屈ヲ竝ベテ伐ル。其故今ノ芦生演習林モ一度民有トナレバ數年ヲ出デズシテ無價値ノ山ニ轉落スルコトハ必然デアル。何ニセヨ芦生ハ山奥デアル。地境ハ近江、若狹ニ接シ、三國山モ境界ノ一山ニ過ギヌ。丹波ト言ヘバ昔ハ鬼ノ住ンダ大江山ノアル國、米ノ生ル木ヲ知ラス篠山ノアル國、昔カラ山ハ深ク木ハ生ヒ繁ツテ居タデアラウガ其大自然ノ一部ガ幸ニモ芦生演習林ニ殘サレテ居ルコトハ有難イト感謝スル外ハナイ。

(4) 關東者ニハ珍ラシク思ヘタモノハ數々アル中デモ次ノモノハ特筆スル要ガアル。

(a) 白花おほひるがほ *Calystegia sepium* R. BROWN.

大正 13 年予ハ佛蘭西ニ留學中巴里博物館員ノ野外植物採集行ニ從ツテ北海道ヤ朝鮮ニアルおほひるがほノ白花品ガ巴里郊外ノ原野ニハ普遍的ニアルヲ見其ガ歐洲植物學者ノ云フ *Calystegia sepium* ノ基本型デアルコトヲ教ハツタ。其ト同一品種ガ芦生ニハ所々ニアルノダカラ愉快デハナイカ。

(b) 前記鬱陵島ニアルこばのこまゆみ *Euonymus alatus* SIEBOLD var. *microphyllus* NAKAI ガ夥シクアルコト。

(c) かやといぬがやトガ無イ代リニちやぼがや *Torreya fruticosa* NAKAI トハひいぬがや *Cephalotaxus nana* NAKAI トガ多クアリ、ちやぼがやハ高サ一メートル位デヨク實ツテキル。

(d) さいしういぬしで *Carpinus Fauriei* NAKAI トイフ濟州島ニ多クアル苞ノ細長イいぬしでガアルコト。

(e) えぞゆづりは *Daphniphyllum humile* MAXIMOWICZ ハ芦生デハゆづりは *Daphniphyllum macropodum* MIQUEL ニ漸次移行シ兩種ノ區界ガ判然セヌコト。

(f) よこぐらぶだう *Vitis yokogurana* MAKINO トあまづる *Vitis saccharifera* MAKINO トノアルコト。

(g) ほそばあをき *Aucuba japonica* THUNBERG var. *longifolia* NAKAI ノ多

クアルコト。

(h) うのはなぎぼうし *Hosta montana* var. *liliflora* F. MAKIWA ガ溪畔ノ岩ヤ崖ニ着生スルコト恰モ關東ノいはぎぼうし *Hosta longipes* MATSUMURA ノ様デアルコト。

(i) さいこくいぼた *Ligustrum ciliatum* SIEBOLD ガ九州、四國カラ芦生迄モ分布スルコト。

(j) あくしば *Hugeria japonica* NAKAI ノ發育ガヨク高サ 1.30 米突位ニナリテ簇生スルコト。

(k) たいみんがさ *Miricacalia peltifolia* NAKAI ノ大キナノガアリ其莖ノ若イモノハ節間ニ茶飲ミニ一杯位ノ無味無臭ノ水ヲ蓄ヘテキルコト。

(l) 暖地性ノした類ハ多イガいはひバ屬植物 *Selaginella* ノ見當ラナカツタコト。

(m) 纏攀性ノ木本植物ガ割合ニ少イコトガ目立ツ、一番多イノはいはがらみデアツテ其他ニハふち、くす、まつぶさ、さんかくづる、あけび、みつばあけび、つるあぢさゐ、あをつづらふち、さるなし、のぶだう、あまづる、よこぐらぶだう、つた、おにつるうめもどき、またたび、つるまさき、ていかかづら等ガボツボツアル、少イ理由ノ一ハ林内ノ蔓植物ヲ切り採ルニモヨルガ人ノ近ヅキ難イ所ニモ少イカラ一概ニ人工的トモ言ヘマイ。

(n) はねみのいぬゑんじゆ *Maackia Buergeri* KOIDZUMI, きんきまめざくら *Prunus kinkiensis* KOIDZUMI, ざいふりぼく *Amelanchier asiatica* ENDLICHER, つしまななかまど *Sorbus Wilfordii* KOEHNE, こばのまんさく *Hamamelis japonica* SIEBOLD & ZUCCARINI, こばんのき *Phyllanthus flexuosus* MUELLER-ARG., ゆくのき *Cladrastis sikokiana* MAKINO¹⁾, へらのき *Tilia dis-*

¹⁾ **Cladrastis** RAFINESQUE Sect. **Sinocladrastis** NAKAI, sect. nova.
Syn. *Cladrastis* Subgen. *Eucladrastis* TAKEDA in Notes Roy. Bot. Gard. Edinburgh XXXVII, 97 (Nov. 1913), pro parte.

Folia 3-5 jugo imparipinnata. Inflorescentia erecta paniculata, ramis divaricatis. Stamina cum filamentis perfecte liberis, ex receptaculo libera. Petala dilute violascentia (*C. sikokiana*), vel alba—carnea (*C. sinensis*), vel luteola (*C. Wilsonii*).

Typus. *Cladrastis sikokiana* MAKINO.—Japonia: Hondo, Shikoku, Kyusyu, Tusima,

Nom. Jap. *Yuku-no-ki*.

Species. 1. *Cladrastis sinensis* HEMSLEY—China: Yunnan, Szechuan, Hupeh, Kiangsi, Shensi, Honan.

Nom. Chin. 小花、香槐

2. *Cladrastis Wilsonii* TAKEDA—China: Hunan, Hupeh, Szechuan,
Nom. Chin. 香槐

tans NATHORST²⁾ (*Tilia kiusiana* MAKINO & SHIRASAWA), けけんぼなし *Hovenia tomentella* NAKAI, もみぢうりのき *Marlea platanifolia* SIEBOLD & ZUCCARINI, ほんしやくなげ *Rhododendron Metternichii* SIEBOLD & ZUCCARINI var. *hondoense* NAKAI, たちみやましぐれ *Viburnum urceolatum* SIEBOLD & ZUCCARINI, こばのみつばつつじ *Rhododendron rhombicum* MIQUEL, 中國ざさ *Sasa tyuhokensis* MAKINO 等ハ關東デハ見ラレヌ木ヤ笹デアル。こばのまんさくヲ小泉君ガ關東ニアルまんさくト區別シタノハ標本ノ上デハヨク判ラナカツタガ芦生ヘ來テ實物ヲ見テ成程ト首肯サレタ。

²⁾ *Tilia distans* NATHORST, Bidrag till Japans Fossila Flora in Vega-Expeditionens vetenskapliga iakttagelser II, 195 fig. 5-13 (1882).

Syn. *Tilia kiusiana* MAKINO & SHIRASAWA in Tokyo Bot. Mag. X, [364] (1896), cum dign. Jap.; SHIRASAWA in Bull. Colleg. Agric. Tokyo Imp. Univ. IV, 155 Taf. 1 (Die Gattung *Tilia* in Japan) (1900) et Icon. Essen. Forest Trees Japan II t. 50 (1908).

It is no wonder that the fossil remains of this plant which predominates widely in West Japan are found in the quaternary deposit at Mogi of the Province of Hizen.